上野動物園　見どころ新聞

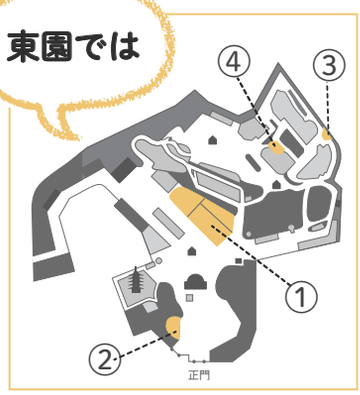
ZOO TODAY

8月号

（No.502　2026年8月4日発行）



東園では

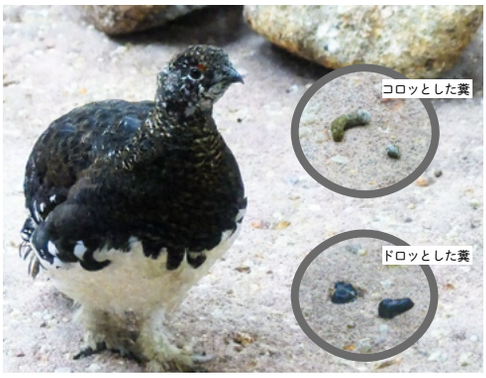


8月12日は世界ゾウの日…①

暑い日にはアジアゾウが耳をうちわのようにパタパタ動かします。ゾウの耳にはたくさんの血管が通っているので、耳を動かすことで中の血液が風で冷え、その冷えた血が体中に回って体温が下がるのです。さらに、鼻で水や砂を体にかけたり、水に入ったりして、体の熱が上がりすぎないようにしています。

現在、ゾウは牙や皮を狙った密猟や、森林伐採によってすみかを奪われることで数が減少しています。私たち一人ひとりが、象牙の利用について慎重に考えたり、できるだけ野生のゾウやその生息地に負担をかけない商品を選んだりすることが、ゾウを守る第一歩になります。

世界ゾウの日のイベントはこちら（公式HP）➡



日本の鳥Ⅰ：ライチョウのうんち…②

展示場をよく見ると、糞が2種類落ちています。コロっとした糞は、食べた物を消化吸収したあと、水分をしっかり抜いて出したものです。ドロッとした糞は、盲腸の中で分解された食べ物の残りです。餌となる植物が少ない高い山でくらすライチョウは、発達した盲腸で微生物に食べ物を分解してもらうことで、植物からできるだけ栄養を引き出します。つまり2種類の糞が展示場内で見られることは、そのしくみがきちんと働いている、元気なライチョウの証でもあるのです。ほかにもライチョウにはユニークな特徴がたくさん。「ビンゴ de かんさつ」を使って探してみてください！

詳細はこちら（公式HP）➡

コンコン1才に…③

8月24日で、シロテテナガザルのコンコンは1才になります。生まれてすぐのころは皮膚がピンク色で、全身にうっすら白っぽい毛が生えているだけでしたが、今では皮膚は黒っぽくなり、父とも母とも違うクリーム色の毛がふさふさに生えています。母親のそばにいることがまだ多いものの、テナガザルらしく腕渡りをする場面も増え、起きているときは父母よりも活発に動き回っています。シロテテナガザルの体の色は2～4才で最終的な色になるといわれています。コンコンはこのままの色なのか、それともっと濃い色になるのか…クリーム色なのは期間限定かもしれません。

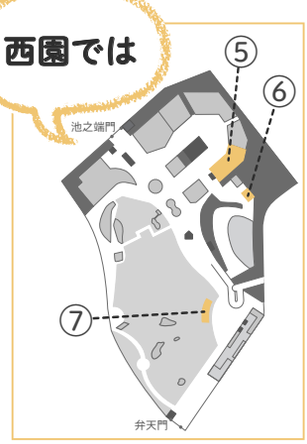




暑い日は「夜の森」へ…④

暑い日は涼しい「夜の森」で、じっくりコウモリを観察してみましょう。コウモリは、飛ぶ環境や暮らし方によって翼の形が異なります。ここにいるデマレルーセットオオコウモリの翼は、長くて幅も広いタイプです。この大きな翼は、重い体を少ない力で浮かせ、ゆったり長く飛ぶのに適していて、果実が実る木から木へ移動するのに役立ちます。一方で空気抵抗が大きいため、高速で飛ぶのには向きません。これに対して、細長い翼をもつコウモリは、翼の空気抵抗が小さく、開けた場所をすばやく飛び回りながら、空中を飛ぶ昆虫を効率よく捕まえます。

西園では



小獣館地下：ミナミコアリクイ展示再開…⑤

夜行性のミナミコアリクイが、昼夜逆転させたこちらに移りました。コアリクイは樹上で暮らすため、ここの展示室も枝を組んで木に登れるような環境に整えてあります。前足には大きくて鋭いかぎ爪を持ち、この爪を枝に引っかけながら登っていきます。また、野生では、この爪を使って木の上にある土でできたアリの巣を壊し、中から出てきたアリを長い舌を使って舐めとります。動物園では、枝の上に餌の入った瓶が吊るされているので、瓶の穴から舌を挿し込んで食べる様子も見られるかもしれません。




キンケイ

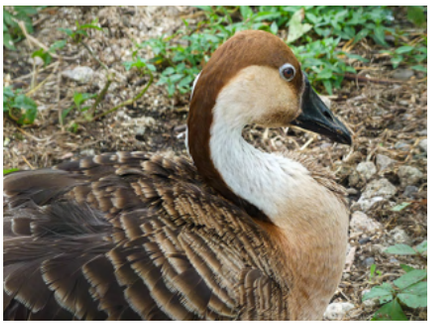
ただいま換羽中！…⑥

初夏の頃までは、キンケイとギンケイのオスには、全身にカラフルな羽、そして長い尾羽が生えていました。繁殖期を終えた現在は、それらの羽がすべて抜け落ちてぼろぼろになっています。しかしよく見ると、新しい羽が生え始めています。体の表面にストロー状の細い筒が見えますが、このように筒に包まれた状態で新しい羽が生えてくるのです。そして、その筒が剥がれ落ちると中から新しい羽が広がり、次の繁殖期に向けてまた美しい姿に変わっていきます。ぜひその過程を観察してください。

サカツラガン、不忍池の子ども動物園側へ…⑦

鳥インフルエンザ対策で屋内に避難していたコウノトリ・シジュウカラガン・サカツラガンが、7月に不忍池のほとりに戻りました。

このうちサカツラガンは、昨夏は池の対岸のケージにいたので、今までその存在に気づかなかった方も多いでしょう。サカツラは漢字で書くと「酒面」、頬がほんのり赤みを帯びていることが由来ですが、個体差もあるようです。ここにいるのはどう見えるでしょうか。中国で家畜化され、「シナガチョウ」としてアジア・アフリカなどで広く利用されていますが、原種のこのサカツラガンは生息地の減少や狩猟などにより絶滅が危ぶまれています。



お答えします！よくある質問

Q. 親子や雌雄で色がちがうなど、なぜサルの仲間はカラフルなのですか？

A. 昼に活動するサルたちは、体の色でさまざまな情報を伝えあっています。

哺乳類はほとんどの種類が茶色や黒など地味な色です。これは、哺乳類は夜行性のものが多いからです。暗い夜はものが見つらいので、多くの哺乳類は視覚ではなく、嗅覚（におい）や聴覚（声）でコミュニケーションをとっています。

しかしその中で昼間活動するようになったのがサルの仲間です。明るい時間なら、目が役立ちます。そこでサルたちは視力や色覚を発達させてコミュニケーションするようになりました。

多くのサルが、子どものうちは地味な色でも、おとなになるとカラフルになります。これは、相手が同じ仲間であることや、成熟して繁殖できる状態であることを互いに確認する意味があります。さらに、ゴリラの銀色の背中、ブラッザグエノンの水色のお尻などは、オスとしての魅力のアピールです。ニホンザルは秋の繁殖期に顔やお尻の赤みが濃くなり、準備が整ったことを異性に知らせます。


ニホンザル


ブラッザグエノン

＼紙面向上のため、簡単なアンケートにご協力をお願いします／
アンケートに答えた方に紙面掲載動物のオリジナルデータをプレゼント！

発行：（公財）東京動物園協会　制作：上野動物園
◇無断で複製・転載しないでください　◇紙面に関するご質問等は教育普及係 解説班へ（03-3828-5171）

公式X(Twitter)　公式Instagram